

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第 11 回保育園・学校部会」 会議録

日時 平成 30 年 12 月 7 日 午後 5 時 00 分

場所 地域交流センター 第 3・4 研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
宮川裕満(学校組合教育委員) 中原 敏(筑北中学校長)
清沢 剛(筑北中学校教頭) 宮下智恵美(筑北中学校教務主任)
福田弘彦(麻績小学校長) 北條泰瑞(麻績小学校教頭)
鳥海 康(麻績小学校教務主任) 臼井孝夫(麻績保育園長)
小山芳道(筑北中学校前 PTA 会長)
欠席委員 柳澤友則(麻績小学校 PTA 会長) 山本一義(筑北中学校 PTA 副会長)
刈間伸一(麻績小学校前 PTA 会長)
教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 臼井太津男(教育次長) 尾和正行(主事)

1. 開会

教育次長：それでは、定刻となりましたので、これより第 11 回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

2. 部会長あいさつ

部会長：お忙しいところ、またお疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、大雪ということでいよいよ冬本番に入る訳ですが、インフルエンザが心配されます。保育園については、何とか収束されたということで、良かったと思います。
先の三校園連絡会では授業の公開等、小学校の先生方ありがとうございました。また、講演会については大変好評だったということも伺っております。各学校の様子から学び合うことは、正に一貫教育の基底となる大事なことだと感じました。授業公開の中でもありました「ビブリオバトル」の小中連続しての授業は、先進的な教育実

践だと思えます。また、働き方改革については報道等でよく目にしますが、変形労働時間制という考え方も出ております。こういう考え方も今後大事になると思えます。

最近、村の教育行政について様々な意見を拝聴させていただいております。皆さんの耳にも入っていることかと思えます。私は、教育には3つの大事なことがあると考えております。1つは、「目の前の子どもの現実に立脚しているか」。2つ目「子どもが生きる未来社会を広く展望しているか」。3つ目、「子どもたちのために汗をかいているか」。この3点を大事に考えております。

本日の会議は次第のとおりであります。忌憚のない活発な話し合いをお願いいたします。

3. 協議事項

教育次長：それでは、協議事項に入りたいと思えます。協議につきましては部会長に進行をお願いいたします。

(1) 前回の部会(10/12)の再確認

部会長：それでは、前回の部会の再確認ということで事務局から説明をお願いいたします。

教育次長：まず始めに今回配布させていただいた資料の確認をさせていただきます。「喬木村 ICT 教育資料」、「文科省 ICT 活用資料」であります。また、「『読書指導』小中連携の取り組み」が追加で出ておりますので、ご確認いただければと思えます。

前回の議事録については、委員の皆様すでに配布させていただいております。何かございましたらご指摘いただきたいと思います。

部会長：会議録については、事務局から事前に配布をし、皆さんに確認していただいていると思えますが、よろしいでしょうか。

教育次長：ありがとうございます。それでは、前回の部会の再確認をさせていただきます。前回は、各分散会の今年度計画状況を確認させていた

できました。また、11月28日に行われた第2回目の三校園連絡会の確認がされております。保護者からの意見・要望等についてはPTAに掛かる負担の軽減を念頭においたアンケートについての説明をいただきました。組織の縮小、行事の削減の中、負担軽減に向けて先生方との協議を重ねていくということで報告をいただきました。最後に、保護者との意見交換会について内容・開催について協議をいただいたところであります。以上であります。

部会長:今のまとめの中でご意見や付け足すようなことがありましたら願います。よろしいでしょうか。それでは、次に移ります。

(2) 各分散会の状況について

部会長:それでは、各分散会の状況については、その後伝えておく動き等があったらお願いしたいと思います。まずは、ご用意いただいた読書指導についてよろしく願います。

委員:読書指導の分散会の取り組みとして、5月に洗い出しをして活動計画を作成し、各校で活動の検討する中で11月の読み聞かせやビブリオバトルの実施を考えました。11月の取り組みとして、中学校としては小学校に説明をさせていただいて、小学校で非常に熱心に事前練習をしていただきました。三校園連絡会では、授業公開でビブリオバトルの様子を見させていただきました。中学校では、図書委員を中心に小学生も参加するということが計画をし、全校生徒への呼びかけをしました。3年生は独自にビブリオバトルの練習をして、小学校の6年生を呼んだビブリオバトルが成功するように考えてくれました。そのような経緯で、小中合同のビブリオバトルを実施することができました。当初は、「見学してもらうぐらい」と考えていましたが、実際に参加してできたことは非常に良かったと思います。

「最初は嫌だったけど、やってみてとても良かった」という感想が1年生の生徒からありました。その他の感想については取りまとめられておりませんが、検証の材料にしていきたいと思っております。

次の資料は、麻績小学校6年生へのビブリオバトルを紹介している時の様子です。説明している時は、「嫌だなあ、恥ずかしいなあ」と

いう様子でしたが、小学校で何回も練習してもらったので、スムーズに合同で行うことができました。読書指導の分散会でも「小学生も一緒にビブリオバトルができればいい」と話をして、実現できたことはとてもよかったと思います。また、来年に繋がるように考えていきたいです。

部会長: ありがとうございます。付け加え等ございましたらお願いします。

委員: 中学校から小学校に話をいただいた時に「発表の上手ではなく、どの本が読みたいかということ競う」という話でしたので、小学6年生と中学3年生での差はあまり感じないのかと思いましたので、受けました。実際にやってみるまでは、「嫌だ」という意見がありましたが、1回やってみたら「面白そうだね」となって、その時に反省点もいくつか出てきましたので、2回目の前に中学校の先生に来ていただいてご意見いただきました。3回目は、三校園連絡会の時にやって準備をしてきました。当日は、中学校の中に小学生が1人混じってやるということに抵抗感があったと思いますが、中学生にうまく支えてもらえたと思います。今回、6年生がやって、これで中学校に上がっていきますので、これから先に繋がるので続けていければと思います。

部会長: ありがとうございます。その他にご意見いただけますか。

委員: 私は、小学生と中学生では読む本が違うので、ビブリオバトルがうまくいくのかと思っておりましたが、三校園連絡会の時に小学校のビブリオバトルの様子を見させていただきましたが、「今の小学生は、こんなに難しい本を読んでいるのか」と思いました。うまく行って良かったと思います。

委員: 小学生でも、中学生もそうですが、違う学校に行って発表をするという経験はすごく良いと思いました。

部会長: 保育園としてご意見ございますか。

委員：一緒にという訳にはいきませんが、小学校に繋がるような本を好きになってもらうという観点でご協力できたらと思っています。

部長：その他にご意見等ございますか。

委員：本を紹介するということがあります。決められた時間の中で自分の意見を言えるということは良い経験になったのではないかと思います。

委員：小学生にとっても、また中学生にとってもいい刺激になったのではないかと思います。

部長：ありがとうございます。それでは、ICTの関係からもお願いします。

委員：ICTの関係で、2つ資料を付けさせていただきました。今回、喬木村で新たに遠隔合同授業が行われるというご連絡を受けまして、ICT支援員と共に11月12日に行われた公開授業に参加させていただきました。喬木村ですが、人口は6,156人で小学校が第一小学校、第二小学校と2校あります。第一小学校は全校児童318人、第二小学校は全校児童50人です。また、第二小学校は村の中心からおおよそ6キロメートル離れておりまして、統廃合問題があったそうです。「地域の活力として学校を存続させたい」という要望が地域にありましてICTを活用することで他者との共同する機会の提供を可能したということです。この事業としては、平成27年度～29年度の文部科学省委託で「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」ということで事業の完結を迎えて平成30年度に公開授業を行ったというものです。

小中学校と見させていただきましたが、小学校はパソコン教室がなく、代わりにアクティブ・ラーニング教室というものがあり、そこには遠隔テレビ会議システムがありました。「テレビで遠隔の授業ができる」。いわゆるテレビ会議ができるといったものでした。その他には、可動式の机等があるだけで長机等はありませんでした。実際には、遠隔テレビ会議システムにより第一小学校と第二小学校がやり取りをしながら一緒に合同で授業をしていくというものでした。

ただ、この部分については専用回線で繋いでいるということでしたので、使用方法は限定的である部分と初期費用・ランニングコストがそこそこ掛かるといった意見を持ちました。仮に、そのまま麻績に導入するとなれば多額の費用が掛かります。その他にも熊本やオーストラリアとの遠隔授業も行っているということでしたが、まだまだ発展途上というところのようです。

中学校は、生徒一人ひとりにタブレット端末が供給されておりました。このタブレットについては、小学校と同型のものでありましたので、小学校から中学校に上がってもストレスなく扱うことができるといったものです。このタブレットについては、板書や先生の説明があり、その中の1つとして効果的に使われている印象でした。

ICT 支援員と話をした中で「タブレットはこれから中心的になっていくのではないか」と思いました。どういったタブレットが良いのかはこれからの協議になると思いますが、麻績村としては ICT 環境を安価で整備する検討をし、その中でうまく活用する方法を考えていければと思います。例えば、就学旅行先にタブレットを持っていき、修学旅行先とのライブ通信のやり取りが各学校でできるということはそんなに難しいことではないと思います。まずは、タブレットを中心にどんなことができるのかを考えていければと思っています。ある程度の方向性が見えてきたら、昨年度お世話になった ICT 活用支援アドバイザーの先生にも相談していければと思います。

2つ目の資料である「次世代を担う子どもたちに必要な力と教育 ICT の活用」については、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室長の方が講演をされたときの資料になります。参考になればということで付けさせていただきましたので、よろしく願いいたします。以上です。

部会長: それでは、このことについてご意見等ございましたらお願いします。

委員: 麻績村長が願う子ども像の「急激に変化する社会に対応できる子どもに育てほしい」ということがありますし、ICT を適材適所で活用できる子どもに育てほしいということは感じております。学校としては、ICT 機器を揃えていただいてありがたいと思っておりますが、「上手に使いこなせていない」というのが現状であります。機器

を入れていただくとともにどのように授業で生かしていけばいいのかということを保小中一貫の観点からも保育園ないし小学校 1 年生からの積み重ねができると良いと思います。これは、学校の職員だけでは難しいと思っております。授業にどのように取り入れていけばいいのかを一緒に考えてくれる方が必要だと感じています。子どもたちが当たり前に見えるように力をつけていければいいと思います。

もう 1 点、ICT とは少し違うかもしれませんが、ネットモラルということを保小中学校を通して指導をしていければと思います。何かが起こった時に対応するというのではなく、家庭も含めて継続した指導ができればと思います。危険性や有効な使い方ということを含めて指導をしていくことが子どもを育てていくことに繋がっていくと思います。

部会長: 大事なご指摘をいただきました。その他にございますか。

委員: 喬木村の資料を見させていただいて、学力の数値的にも伸びているので、ICT のおかげというよりも ICT を使った授業づくりの結果だと思います。私もデジタル教科書やプロジェクターを使わせていただいておりますが、効果的に使って子どもの力を伸ばしていければと思います。

子どもたちに ICT 機器を使って欲しいという思いはあるのですが、文字入力に時間が掛かり過ぎてしまうと肝心なところまでなかなかたどり着かないということもありますので、そういうところが課題になると思います。

部会長: その他によろしいでしょうか。それでは、今出された意見を分散会でも大事に考えてもらいたいと思います。次に移ります。

(3) 保小中一貫教育 平成 30 年度 第 2 回三校園連絡会について

部会長: 保小中一貫教育 平成 30 年度 第 2 回三校園連絡会について説明をお願いします。

委員：三校園連絡会では、始めに授業の様子を見ていただきましたが、先生方にとっては、お互いに何をやらなければならないかを感じ取れる内容だったのではないかと思います。講演会ですが、学校関係者以外はあまり出ておりませんでした。参加していただいた方からは質問をしていただけるぐらい関心のある講演内容であったと思います。

部長：それでは、ご意見等ございましたらお願いします。

委員：実際に学校に上がってくる子どもの授業の様子を見るということはあまりないので、新鮮でした。お互いの授業を見るということは刺激になると思いますし、授業づくりを考えるいい機会になったのではないかと思います。講演会も、資料も分かりやすく、伝え方も分かりやすい講演で良かったと思いました。

委員：授業の様子を見させていただいて今の先生方は、授業の進め方が上手だと感じました。以前、中学校の英語の授業を見させていただいた時も感じましたが、「覚えなさい」というものではなく「言葉を教えている」という印象を受けました。講演会は、もっと多くの保護者に来てもらえれば今抱えている不安が減ったのではないかという気がしました。

委員：前は中学校、今回は小学校で授業を見させていただきましたが、教え方が上手で楽しかったです。講演会の中で、学校教職員に求めたいこととして「学校の“伝統”や既存の慣習に適応する子どもたちを製造するのではなく、未知の将来を生きる子どもたちに必要な『自律的に学ぶ力』を育む教育実践をめざす」という部分が印象に残りました。全体的に話し方も伝わりやすくとても良かったと思います。

委員：先生方が、積極的に情報を取り込もうとしている授業参観で良かったと思います。

部長：今回、講演していただいた先生は一貫教育を進める上で大事な方だ

と感じました。麻績村の講師としてやっていただければキチンと方向を見据えてできますので、ぜひそのようなことができればありがたいと思います。

委員：講演会についてのご意見をお聞きして、皆さん「この講演を多くの方に聴いてほしい」というのが統一した意見だと思います。講演会の後も連絡を取らせていただいております、「ぜひ、これからもお願いします」という話をしてところ「予定さえ合えばいつでも結構です」というご返事をいただきました。1回だけの講演だけでなく、早い段階でお話すればやっていただけるとと思いますので、お願いいたします。

部長：ありがとうございました。それでは、次に移ります。

(4) 平成 32 年度に向けて ～中学校村立化～

部長：32 年度に向けて、後 1 年の中で何をどうしていくのかがこの部会に課せられた大きな課題だと思います。この次の会の時に具体的なプランを出していただいて、それらについて皆さんにご検討いただいで進めていければと考えています。今日は、話をお聞きする中で皆さんからご意見を出していただいて、学校でまとめていただいたものを次回に検討するといった段取りで進むのはどうかと考えましたが、いかがでしょうか。

全員：(了承)

部長：ご賛同いただけましたので、どのように考えていくのか説明をお願いします。

委員：中学校の村立化までは、今年の 3 学期と来年 1 年間となります。そういう意味では、来年度の筑北中学校の学校づくりがそのまま平成 32 年度の村立中学校の姿になると捉えています。来年度については、3 年生に坂井地区の生徒もおりますので、目の前の子どもたちについて目指す姿になれるように力をつけていきたいと思います。来年度

の方向としては、学校評価を行い、まとまってきておりますので、それを受けて来年度の改善に向けていきたいといったスケジュールです。

私の考えでは、村立中学校になると 3 つの強みがあると思っております。1 つは、村内 1 小学校 1 中学校で強固な小中一貫教育を行うことができると思います。これまでも小中学校の連携はやってきている訳ですが、一貫した連携ができると思います。2 つ目は、デメリットでもあると思いますが、人数が少なくなるので、講演会での話のように小規模校の良さを生かした、個に応じた教育ができると思います。3 つ目は、スリム化ということを考えています。今まで、組合立ということで両村に関わって行ってきたことがあると思いますので、その分をシンプルにしてスリム化を行うことができると思います。

私が 1 番大事にしていきたいのは授業ですが、1 つ目の一貫した教育と 2 つ目の少人数の良さの強みを生かしていけるのは授業づくりだと思っています。学習の手引きの中にも交流型学習が位置づけられています。少人数であっても、対話によって学びを深めていくことができるという学習です。そういう交流型学習は少人数だからこそできると思いますし、それが小学校からも取り組んでいき、積み重ねていった子が中学校に上がって、さらに 3 年間の 9 年間積み重ねていけば質の高い学びを作っていくことができるのではないかと思いますので、「交流型学習を小中一貫の学習づくりの中核に置いていきたい」という願いがあります。

もう 1 つは、スリムになった部分を何に生かせるかということがあると思います。校内でも「ふるさと学習」を大事に考えていて、今は 3 年生を中心にふるさとの文化財を学んで、最後にカレンダーにまとめるといった取り組みをしています。それを小学校から繋げていくことで中学 1 年生から文化財の学習をして、3 年生で時間を作って、地域に提案をしたり、一緒に連携をして貢献できる活動をしたり発信をしたりする探究的な学びができればいいと考えています。これまでは、麻績村と筑北村を平等に学んでやってきた部分があるので、それは筑北地域として大事なことだと思いますが、小中一貫してやっていくことで小学校で勉強してきた麻績村の文化財については、中学校ではそれを基にしてスタートできますので、その分の

スリムになった部分で探求的な学びを中学 3 年生でさせたいということを考えています。そんなところを核に考え、次回にお示しできればと思っています。

小中一貫でできればいいなと思っていることは、教科学習です。前回、体育についての説明がありましたが、同じ教科で教える方同士で学び合うような機会や情報交換をして、職員が研修できると思います。小中一貫でやれそうなものを検証しながら、年間計画に位置づけていかないとその時だけのものになってしまうので、持続的なものにできればいいと思います。

部会長: ありがとうございます。それでは、ご意見いただけますか。

委員: 教科の連携は、重要だと思います。私個人としては、授業の見学はしたいと思いますが、皆が賛成するかは分かりません。

委員: 今日、中学校の英語の先生に来ていただいて小学校の 5、6 年生に英語の授業をやっていただきました。そういうものをきっかけにして広がっていければと思いました。逆に小学校の先生が中学校に行けるのかというところはあると思いますが、できることを考えていきながら職員の繋がりも考えていければと思いました。

委員: ご提案いただいた内容は、この部会でも言っていた「ボトムアップ」に繋がるものだと思いますし、今までの色んな意見の中で、この方向の提案は職員の理解も得やすいと思います。授業づくりについては、私たちが現場で感じている「主体的な学習が提供できる授業づくり」というのは、麻績でなくてもどこでも必要にされています。どうやって打ち出していくのかというところが軸になる部分ではないかと思います。「スリム化」という言葉も職員の立場からすると重複する部分が減ったり、やり直しの部分を減らすことになるのでありがたいことだと思います。教科の繋がりというのは、小学校の学級担任にとっては専門性の高い中学校の先生方から情報をいただくことができるのは、とてもありがたいことだと思います。先ほど話が出ましたが、小学校は何が中学校にできるのかというところがありますが、職員の中でも共感が得られやすく、「皆でやっていこう」

ということが確認できる内容かと思えます。

これを外に発信する時に、上手なアプローチをしないと理解が得られづらいと思えますので、伝え方が大事になると思えます。

委員：先生方のお考えがしっかりしていると感じました。保育園を含めながら今の話を進めるのは難しい面があると思えます。まずは、小学校と中学校の体制づくりを進める中で、どのように保育園として関わっていきけるかという形でご提案いただいた3点の方向で進めていただくのが良いと思えます。

部長：保育園と学校では在り様が違いますので、まずはお互いについて聞き合いながら生かせるところを生かしていくという繋がりからということですが、その他にご意見いただけますか。

委員：スリム化をすることで中学3年生では地域に貢献できることをやっていくというのは、すごく良いと思えます。また、中学の先生が小学校で授業をするというのは、児童生徒にとっても新鮮で刺激になると思えます。次回また、お聞きしたいと思えます。

委員：スリム化という言葉ではありますが、これがうまく回ると内容の多い太いものになると思えます。

委員：教科学習の話がありましたが、先生方の中でも、経験年数が違いますので、専門分野以外にも経験からそれぞれの学校での交流やお手伝いができるばいいと思えます。お手伝いされる先生も自分を振り返る機会になると思えました。

部長：それでは、色んな感想・意見が出ましたが、ご参考にさせていただいて次回またお示しいただきたいと思えます。

委員：今回の説明の中では、保育園に触れておりませんでした。直接はまず保育園と小学校でつながり、それが中学校につながると思えます。小規模校では、多様なつながりが大事になると思えます。中学校では、大学生や小学校とも関わらせていただいております。保育園と

は主に家庭科や職場体験で関わりをもたせていただいていますので、大事に進めていきたいと思ひます。

委員：小学校の学習は、保育園の遊びが基本となっています。保小のつながりは今までの部分でも良いものがあると思ひますので、今後もそれを大事にしていきたいと思ひます。

部長：私の方からお願いになりますが、先ほど提案された話の中では、歴史・文化に焦点をあてていましたが、産業や人々の生活といったところも含めて考えていただけるとありがたく思ひます。

委員：ふるさと学習に関連しまして、村の方でも補助金を受けて行っている事業がございます。歴史・文化の関係で、今年度は文化財マップや麻績村の文化財の本のリニューアルとアーカイブ化ということで文化的な話を映像として残していくということを行っています。学校のふるさと学習に合わせて考えさせていただけると大変ありがたいです。来年度、再来年度についても補助金の要望はさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

部長：その他によろしいでしょうか。それでは、次に移ります。

(5) 保護者からの意見・要望について

部長：保護者からの意見・要望について説明をお願いします。

委員：11月28日の講演会の後、午後5時から地域交流センター3階ホールで保護者との意見交換会を開催いたしました。実際に参加された方は11名で、その中にはPTAの役員と意見交換会を行ってほしいという要望のあった有志の方も含まれます。参加人数が少なかった原因は、こちらでの周知が遅かった点やテーマを絞らなかったために分かりにくかった点等があると思ひます。

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会の進捗については、館報や広報等でお知らせしているつもりでしたが、なかなか保護者を始め、地域の方にしてみれば「よく分からない」「理解できない」と意

見がありました。内容についても「一貫教育でどう変わるのか」「具体的に方針を示してほしい」というご意見もいただきました。周知の内容についても、誰でも読んでわかる形の周知が必要だと感じました。先ほど中学校の先生が小学校に出前授業をされた話がありましたが、そういった具体的で分かりやすいものに焦点をあてて周知していくことも良いかと思います。また、今回の意見交換会は、保護者の方からすると参加しづらい時間帯ではあったので、そういったことも含めて皆さんにご協議いただければと思います。

部会長：それでは、意見交換会について皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、お願いします。

委員：意見交換会は参加者が少なくて残念でしたが、後から「私は意見交換会があるのを知らなかった」と言われても良くないので、意見を集約する場はあった方がいいと思います。

委員：「具体的な方向性が知りたい」という話は、以前からありました。やはり、保護者からの意見を集約して、それに対しての答えを出せば納得してもらえらると思います。

委員：今度、意見交換会を開催する時には、テーマを決めて、学校統合については抜きにした方がいいと思います。一貫教育に絞った形でやらないと学校統合の話になるから参加がしづらいという方もいると思います。

部会長：保小中一貫教育を進めていくためには、保育園と学校だけでなく、地域がバックアップしてやっていかないと成り立たないと思います。保護者、地域が一体になって考える方向に持っていくことが私たちの務めだと思います。ゆくゆくは、青少年育成村民運動推進大会のように色々な組織の方に関わっていただく形になっていければと思っています。その他にご意見ございますか。よろしいでしょうか。それでは、その他に移ります。

(6) その他

部会長: その他に何かございましたらお願いします。よろしいでしょうか。
それでは、次回の開催日程についてお願いします。

4. 次回開催日程

平成 31 年 2 月 1 日(金) 17 時 00 分 ~

部会長: それでは、教育長さん何かございましたらお願いします。

教育長: ふるさと学習について、話が出ておりましたが、地区でも文化・伝統の継承が難しくなっているという問題が出てきておりますので、その辺も踏まえていただければありがたく思います。

教科担任制の話については、可能であれば 5 年生ぐらいからやっていただければありがたいです。今日、話にも出ておりました英語の関係はぜひお願いできればと思います。また、ICT の関係についても、機器の更新も含めて考えていきたいと思っています。

情報発信の話もございましたが、これについては本当に課題であります。どのような伝え方が良いのか、良いご意見がございましたらご教授いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

お繋ぎしたい点としまして、子育ての担当職員 2 名について、滋賀県に交流授業の研修に行ってもらいました。来年度の早い段階でそういったことも検討できるようにしたいと思っていますので、内容が詰まってきましたらお示ししていきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

もう 1 点、これは保小中一貫教育とは少し違うかもしれませんが、ひだまり広場の中で「英語に親しみたい」という考えの方が増えております。これについては、こういう話も出ているということですので、情報として知っておいていただければと思います。

最後に、9 月に教育関係者に動揺を与える事案がございました。しかし、今までやってきたことに影響はございませんので、皆さんは動揺が無いようお願いしたいと思います。

部会長: それでは、閉会をお願いします。

5. 閉会

教育次長：長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございます。以上をもちまして、第 11 回の保育園・学校部会を閉会いたします。ありがとうございました。